

The following saying shows the differences in character of the three men who helped put an end to the Warring States period in the sixteenth century: **What would each of them do if a cuckoo refused to sing for him? Oda Nobunaga would kill it, Toyotomi Hideyoshi would try to make it sing, and Tokugawa Ieyasu would wait for it to sing.**

【語注】 the following saying 次の言い回し the differences in character 性格の違い help do ～～するのに貢献する put an end to ～～を終わらせる the Warring States period 戦国時代 each of ～～のそれぞれ would do if...refused ～〈仮定法過去〉 (§16) cuckoo ホトトギス refuse to do ～～するのを拒絶する try to do ～～しようと(努力)する make it (= the cuckoo) sing ホトトギスを鳴かせる (§14) wait for ～ to do... ～が...するのを待つ

【英語の視点】 andの大原則

(1) **and**の前後は原則として文法的に同じ形になっている

ex. Tom likes to *sit* in the park **and** *watch* children playing.

「トムは公園に座って子供たちが遊んでいるのを見るのが好きだ」

この文で、andの次がwatchという動詞なので、andは動詞と動詞を結んでいるとわかる。andの前の動詞はlikesとsitと2つあるが、andの次のwatchが原形である(三単現の-sが付いていない)ことから、watchと並列になるのは、同じく原形のsitとわかる。

(2) 3つ以上列挙するときは、列挙の最後の前に**and**を付ける

ex. English learning requires reading, writing, listening **and** speaking.

「英語学習には、読む、書く、聴く、話すが必要である」

この文では4つの-ing形が並列で、最後のspeakingの前にandがある。

(第2文) ① Oda Nobunaga would kill it,

② Toyotomi Hideyoshi would try to make it sing,

and ③ Tokugawa Ieyasu would wait for it to sing.

ここでは、文(SV～)が3つ並列になっている。

次の言い回しは、16世紀に戦国時代に終止符を打つことに貢献した三傑の性格の違いを示している。もしもホトトギスが自分のために鳴かなかつたらどうするか。織田信長なら殺してしまい、豊臣秀吉なら鳴かせてみせようと努力し、徳川家康ならホトトギスが鳴くのを待つであろう。

【歴史の視点】 「鳴くまで待つ」のは家康ではなくて信長

戦国の三傑、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の性格を端的に示した「ホトトギスの歌」は有名だろう。

信長: 鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス

秀吉: 鳴かぬなら 鳴かしてみよう ホトトギス

家康: 鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス

信長は気が短く、秀吉は努力家で、家康は辛抱強いと言われている。

ところが、多くの歴史家や作家の方がよく指摘しているように、信長と家康の歌は逆ではないか。信長はどちらかと言えば「鳴くまで待とう」タイプで、家康がむしろ「殺してしまえ」タイプだ。

信長は戦略的には意外と長期的な展望で作戦を立てる人だった。美濃・本願寺・武田攻めなどはじっくり時間をかけて行っている。一方、家康はテレビドラマではおっとりした描かれ方をされることが多いが、実際には短気だったようだ。家康の有名な言葉に「人の一生は重荷を負うて遠き道をゆくがごとし。急ぐべからず」というのがあり、「人生は堪忍・辛抱が大切だ」ということを説いているが、これは後世の作り話である。仮にこれが本当だとしても、自分にはできなかった理想を言っているだけだろう。受験生の合格体験談のようなものだ。自分自身がきもしなかったことをもっともらしく記述している場合が多い。

確かに、^{みかたがほら}三方ヶ原の戦いの時の無謀さといい、天下分け目の関が原でさえ、敵よりも少ない人数で勝負したあたりは、家康は慎重派とは言い難い。信長の気長、家康の短気については本書でも随時見ていくことにしよう。